

福光町

文化財センター

医王山文化調査報告書

医王は認る

富山県福光町
医王山文化調査委員会

題字
イラスト 桃尾忠義

桃尾忠義

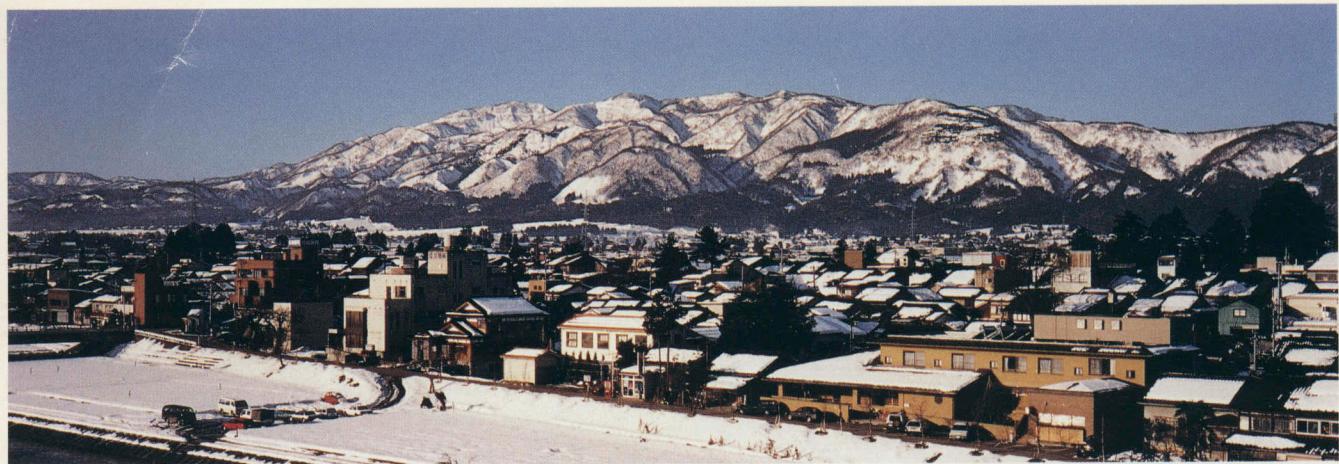
忠義

忠義

忠義

医王は認る

富山県福光町
医王山文化調査委員会



▲冬の医王山遠写（役場庁舎より）



▲夏の医王山遠写（林道赤祖父線より）



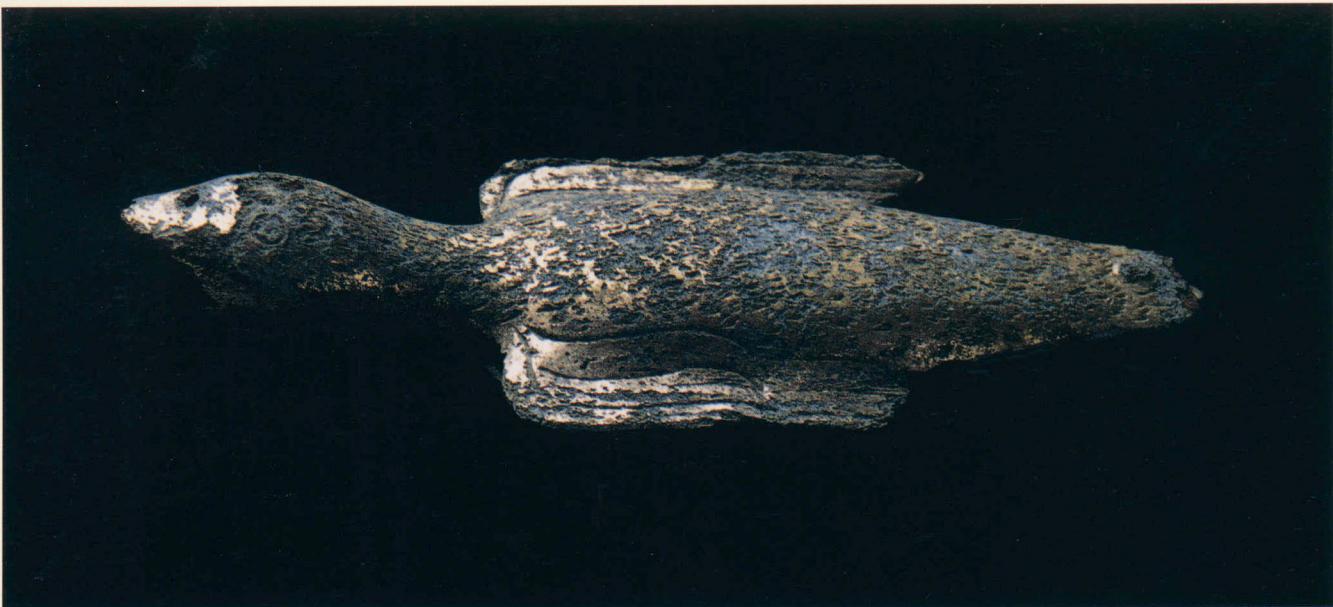
▲白元より奥医王、白山を眺む



医王山空中写真

- ①大池平 ②大沼 ③鳶岩 ④はしご坂 ⑤三蛇が滝 ⑥豊吉川 ⑦二俣登山道 ⑧黒瀑山
⑨百万石道路 ⑩国見ヒュッテ ⑪医王権現 ⑫三千坊展望台

(撮影／平成2年12月13日14時 撮影縮尺／1:10000 撮影高度／1,000m)



鳥形金銅製品（若宮遺跡出土）横面



腹面



背面

(原寸より1.3倍に拡大)

國宗寺頃坐中國石盤於頭領事
之

地頭職事

右如笠頭事如筆圓中者以瀬翁山田御内也。笠石頭事
富翁石火將家并庄衙門外麻片持領未之即承家
四郎惟宣區谷三郎有椎椎范冷地頭領事本派坐仰
被傳二事而之朝相父定直牒版領家房之而自相襲稱
司給早負其請文守候及石海道慶之且持領事本派
傳此頭領之西被載久从三年仰教書卑省禁革之等
梓領仰發之上早經仰契勿傳此到朝廷北所
如之朝事
右如笠頭事本派坐仰

綱馬一庄石界上中下馬一座苦沙
馬一庄得謂之圓在是也何以山田
次貞自領家補往下司職卑事家不公使

馬頭成治安堵下文之後馬用東仰家人恰化掌室解下
及子因次洗久仰教書本庄事不寄之日直熟
奉為領家本莊也何以被牧守令子孫追還本庄此事
額馬山田御内地頭之由今存者名文號牙新田事領家
宣朝請文之七缺矣然而地頭不公教用之三尺印奉
詔故之奏固半云承額馬山御内地頭事

文之承額也既中行教書用合持給

右笠頭事相公松平氏之妻自頭所方越境持作上笠頭
沙下知狀坐者相公松平氏之妻自頭所方越境持作上笠頭
因伍拾朱符許頭為內取之如筆圓中者松平氏有頭所公合
公事不實也。者於下地首私中分持店浪人兩方事合也
至作毛者後直賜曉相論不及沙太兵。

一 持合事

右如笠頭事首先祖定邊立之嗣子昌定澄ト屋敷於笠亭之
右有基所領所者不卜基所高代。與寧山同定澄以院主職守
神田讓与加具信足清半但院主初任之時如於別進見察折
於領所之外全以領所不相交之處當領所持居坊舍令施行
此頭建立者領所不相交之處榜例諭文進之。如筆圓中者
再奉澄大師建立無間經數百歲里霜罕何定澄造亮之尊掠
牛成白山木寺之上藤室二宿也院主職者代領家造亮之領
河令居任早之定朝半云承額馬山御内地頭事之習山跡追尋之
時依候宜令定于宿者先例也坐者前守維真醫王山一宿何
者此頭建立後將又再領所遷退否共以無指證獲收坐則如事向
庄家事有石音

一 加寂事

右如笠頭事者領家伯言町者自文不取加寂於頭所治田武川
者自往古岐地頭加寂笠頭事之慶寶治持往之後令仰當之。笠頭
事者來久以前者此頭不取故日加寂之終所教書所隱特究

「柿谷寺事」の件

天鴻高官兩竹市事

右筆圓中者事有石音合本立領所分地之處不相交領
所而生之在朝半云承額馬山御内地頭事之領所不相交
者之處不相交領所更又領所合立市於京野者此頭不立支
申音中二者付平下九事立市之時領所合力高板
事不實也。者於下地首私中分持店浪人兩方事合也
至作毛者後直賜曉相論不及沙太兵。

弘長二年三月一日

相模守平朝ト
印

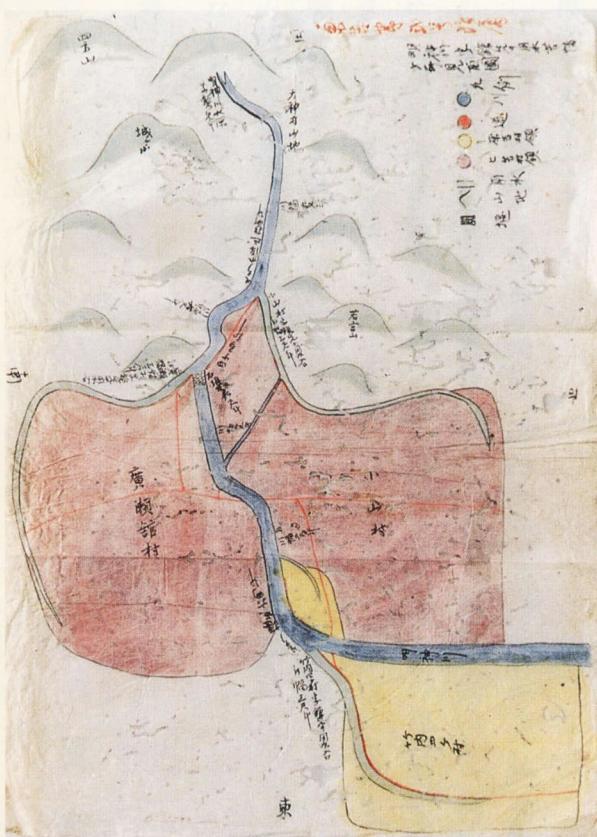
仁和寺
心道院

弘長2年閏東下知状

(前田家尊經閣文庫蔵)



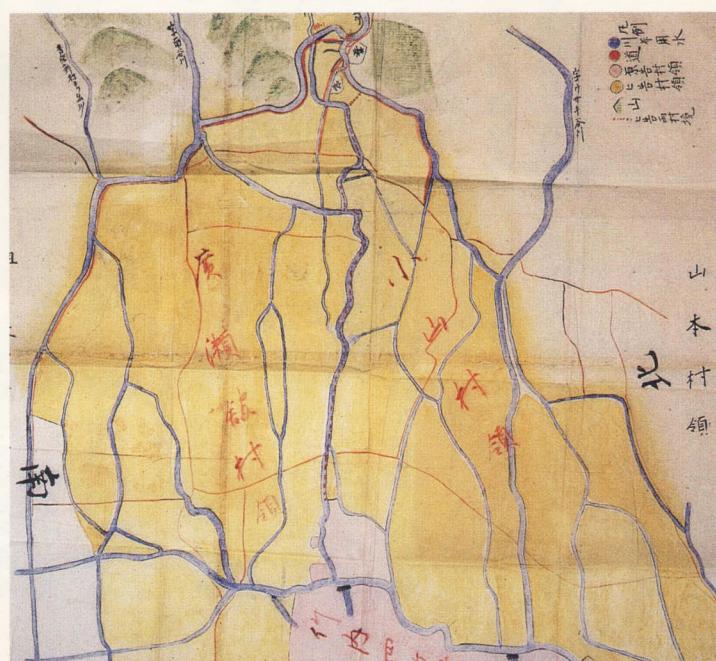
▲前田藩砺波引図



▲明神川字鎌先キ用水苦情ヶ所見取図



▲左上図拡大（福光周辺）



►明治16年広瀬館・小山両村と
竹内4ヶ村水争い時の被告小山
村作成絵図

発刊にあたつて



富山県の最西部、石川県金沢市との境に位置する医王山は、古くより泰澄開山の山として人々に崇められてきた靈山であります。しかし、往古四十八か寺三千坊があり、山岳宗教のメッカであつたと今に伝えられているほどには、その様態は明らかではありません。

瑞泉寺記録『闘諍記』によれば、文明十三年（一四八一）春の田屋川原の戦いに石黒右近光義と育王仙惣海寺衆徒は、井波瑞泉寺一向衆徒、それを助ける加賀湯涌谷衆によつて敗れ、医王山全堂宇が焼き払われてしまつたと伝えています。そのため今まで医王山中にはそれらしき寺跡やそれに類する確かな遺跡は発見されていませんでした。ただ、医王山麓には「寺跡」とおぼしき地名が随所にありますこと、三千坊出土の須恵器の壊や、グンド原で拾われた盤などが、わずかにその痕跡を留めています。

今回行なわれたこの調査事業は、町民の強い要望により、ふるさと創生事業の一環として我々の心の故郷再発見とも言うべき医王山山岳宗教の解明、また人々が山から受ける恩恵の数々、そこから派生する文化を究明しようとするものであり、当町のような規模の自治体では、行なわれることが稀な学術的総合調査事業であります。

調査に際しましては、松村栄吉委員長を始め、町内外二二名の委員が精力的な調査活動を推し進められました。そのご労苦に対し深甚の敬意を表します。また、資料の提供者や関係各地区の皆様方、石川県教育委員会、金沢市教育委員会、並びに富山県教育委員会、その他各関係機関各位にも多大なご協力をいただきありがとうございました。また、この調査報告書作成にあたり、原稿を執筆していただいた方々、編集の労苦をとつていただいた方々に深く感謝の意を表します。

おわりに、この報告書が多くの人々に利用され、医王山を理解していただき、学術的には山岳宗教研究の一助ともなれば幸いであります。

平成五年三月

福光町長 桃野忠義

はじめに

福光町民の医王山に対する熱い想いが、ふるさと創生事業の一環として医王山文化調査事業にふみきらせた。そして平成二年度より四年度にわたる三年の調査事業を石川県教育委員会、金沢市教育委員会、富山県教育委員会の協力を得て実施された。本書はその調査で得た成果の報告書である。

今回の調査事業の主眼点は四十八か寺三千坊伝承で代表される医王山山岳宗教の解明にあり、そこから派生する文化を探つていこうとしたものである。

医王山山岳宗教の解明については、これらに関する古文書類や石造物なども皆無の状態であり、医王山全体の調査となると範囲も広く、当初より不安心視されていたが、幸いにも県内外、各界の学識経験豊富な方々の御指導を得て平成二年五月二十六日、第一回医王山文化調査委員会の開催にこぎつけ、調査委員二二名が選任され、考古学部会、史学・民俗学部会の二部会が結成された。後に調査協力員の方々の御参加を得て調査に厚みが加わった。

考古学部会では医王山の遺跡分布調査や発掘調査並びに関連遺跡の測量調査に全力を傾け、香城寺惣堂跡から珠洲の壺や九世紀の土器出土が続々、第一のピークを迎えた。平成三年度の福光町一〇大ニュースの五位に、香城寺惣堂遺跡発掘がランクされるという町民のこの事業に対する高い関心が示された。第二のピークは元若宮跡から鳥形金銅製品の発掘である。本文中に詳しく報告されているが、鎌倉時代の製作との鑑定を得て、俄然色めきたつた、というのは、本調査で唯一権威のある古文書「関東下知状」柿谷寺と関連があるのではないかとみられたからである。

現在各地で発掘調査事業が進められているが、これらの殆んどは開発事業に關わる緊急発掘調査である。これに対し、本調査はむしろ保存調査である。しかも一自治体の学術調査で、調査年限や経費に制約

があるにもかかわらず、熱心に調査をしていただいた。その並々ならぬ熱意は史学・民俗学とのすり合わせのための研修会や、山岳寺院発掘者を迎えての研修会など、多忙の調査時間をさいて持たれたことなどにみることができます。

史学・民俗学部会では、医王山麓地区の聞き取り調査、神社仏閣や石造物の現地調査等が精力的に行なわれた。調査委員・調査協力員の調査回数は延べ一四一回、それに関連した人数は一、二〇〇人にも及んだことがそれを裏づけると思う。忘れてならないことは、各地区の方々が非常に好意をもつて協力いただいたことである。でなければ実質二年間でこれだけの調査結果を得ることは至難であつたろうと思われる。

このようにして、厚いベールに包まれていた「医王」はその深い眠りからようやく目覚め、我々にその歴史の一端を語ってくれようとしている。

最後になつたが本報告書の監修者を心よくお引き受けいただき、現地調査や研修会などに精力的に御参加いただいた、故大谷大学文学部教授黒田俊雄先生、旧岩木村の歴史をまとめられ「荆波の里」を遺して逝かれた調査委員故斎藤信一氏の生前の御尽力に感謝し謹んで御冥福をお祈りしたい。

医王山文化調査委員長

松 村 栄 吉

医王山東山麓の堂祠と信仰

千秋謙治

(日本考古学協会会員)

(高岡法科大学教授)

医王山山岳信仰伝承（医王山系寺院調査）

溝口博文

(富山県立富山高校教諭)

医王山麓の伝承地名

中村健二

(北陸地質研究所所長)

医王山をめぐる古道

松尾田武雄

(京都国立博物館学芸員)

福光町の中世石造遺物

樽谷雅好

(大阪文化財センター理事長)

医王山をめぐる伝説

寿寿好

(石川県教育委員会文化課課長補佐)

八、本書の編纂は、（故）大谷大学文学部教授黒田俊雄氏、京都大学文学部教授大山喬平氏の指導をえて調査委員会事務局が担当した。

九、当委員会が執筆を依頼し、原稿をお寄せいただいた方々は、次のとおりである。記して謝意を表するものである。

木場明志 大谷大学文学部助教授

金田章裕 京都大学文学部助教授

草野顕之 大谷大学文学部専任講師

森中村健二 金沢大学理学部兼任技術専門職員

澤佐歲 佐藤大谷大学医学部第一解剖学助教授

森本順亮 高岡市立高陵中学校校長

金井静香 京都大学大学院史学研究科

尾田武雄 北陸石仏の会事務局員

樽谷雅好 （財）高岡市民文化振興事業団理事

布目順郎 富山県日本海文化研究所所長

宮田進一 富山県文化振興財団埋蔵文化財課係長

なお、本文中、参考文献・資料提供・その他引用させていただいた方々の敬称は略させていただきました。

十、本調査委員会に対し、指導、助言をいただいた方々は、次のとおりであった。記して謝意を表するものである。

岸本雅敏 （元金沢大学薬学部助教授）

木村久吉 （元金沢大学文化課副主幹）

目次

発刊にあたつて

はじめに

例言

序章 医王山文化調査の足跡

| | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| (一) 調査の経緯 | 1 |
| (二) 測量調査の成果 | 1 |
| 第一章 医王山の自然 | 7 |
| (一) 位置、地形、地質 | 7 |
| 2、地質 | 7 |
| 1、位置と地形 | 7 |
| (1) 医王山累層、(2) 砂子坂凝灰質砂岩泥岩互層、(3) 土山凝灰岩層(七曲凝灰岩層)、(4) 朝ヶ屋泥岩層、(5) 蔵原砂岩層、(6) 高窓累層、(7) 大桑累層、(8) 塗生層(卯辰山層)、(9) 戸室火山噴出物、(10) 医王山累層産のヤシの材化石 | |
| (二) 動植物 | 12 |
| 1、医王山の生物生存の環境的要因 | 12 |
| (1) 氣象、(2) 地形 | |

第二章 医王の山と里の遺跡を探る

| | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| (一) 調査の概要 | 1 |
| 1、調査の目的と方法 | 17 |
| 2、調査の経過 | 18 |
| (二) 測量調査の成果 | 25 |
| 1、太美山地区 | 25 |
| 2、西太美地区 | 26 |
| (1) 橋瀬戸道場 | |
| (1) 香城寺遺跡、(2) 古宮石組、(3) 香城寺ジョウジャ畑遺跡、(4) 香城寺惣堂遺跡、(5) ノマの谷遺跡、(6) 有縁寺跡、(7) 塚経塚、(8) 香城寺御坊山・用口谷平坦面、(9) 前医王平坦面、(10) 松尾寺跡、(11) オオクボ惣海寺跡、(12) 広谷八坂・上寺跡、(13) 広谷行者窟、(14) 広谷御坊山平坦面、(15) グンド原群堂ヶ原、(16) 香山寺跡、(17) 古館神明社跡の五輪塔、(18) 白米玉座、(19) 宗善寺遺跡、(20) ショウゴン寺遺跡、才川七御坊山、(21) ハクラクデン窯跡、(22) 松寺永福寺跡・アミダ田、(23) 才川城跡、(24) 古館遺跡 | |
| 2、生物から見た医王山の特徴 | 12 |
| 3、動物相 | 12 |
| (1) 哺乳類、(2) 鳥類、(3) 爬虫類、(4) 水生昆虫、(5) 魚類、(6) 昆虫類、(7) 昆虫を一覧して | 13 |
| 4、植物相 | 12 |
| (1) 南方系、北方系植物の混生する医王山、(2) 医王山に見られる日本海側の代表植物、(3) 群落や群集、(4) 四季の植物、(5) 紅葉と実、(6) 食用植物と薬用植物 | 16 |
| 5、文化調査地と植物 | 12 |

| | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 3、広瀬館地区 | 60 |
| (1)丸山・大コバ平坦面、(2)梨木平、(3)矢倉畠遺跡、(4)祖谷神明社遺跡、(5)館白山遺跡、(6)館御坊山の平坦面、(7)妙敬寺・柿谷寺跡、(8)広瀬城跡(館城山)、(9)フジガ谷・日野々の平坦面、(10)小坂善吹谷の平坦面、(11)小坂狐上平坦面、(12)三千坊跡、(13)千手堂跡 | |
| 4、広瀬地区 | 78 |
| (1)若宮遺跡、(2)小山登屋尾の平坦面、(3)山本經塚遺構群、(4)法林寺尾の平坦面、(5)山本城跡、(6)梵淨寺跡 | |
| 5、石黒地区 | 85 |
| (1)覚証寺跡、(2)笛塚遺構群、(3)妙法寺跡・光徳寺、(4)桑山城跡・ジゲ寺跡、(5)最勝寺跡・高楯城跡、(6)記塚・莉波神社、(7)愛宕社・諏訪社跡、(8)岩木窯跡群、(9)岩安神明社、(10)石黒墳墓群 | |
| 6、南蟹谷地区 | 101 |
| (1)土山御坊跡、(2)高木場御坊跡、(3)安養寺御坊跡 | |
| 7、医王山地区 | 105 |
| (1)砂子坂道場跡、(2)奥新保安念林遺跡、(3)田島ヒョットの宮・ウルシバラ遺跡、(4)大沼周辺の遺構、(5)奥医王山の遺構・遺物 | |
| 8、湯涌地区 | 119 |
| (1)町城跡、(2)東町遺跡・福神山城跡 | |
| 9、俵地区 | 122 |
| (1)戸室山遺跡 | |
| 10、東太美地区 | 123 |
| (1)是ヶ谷池遺跡、(2)土生新経塚、(3)次郎右工門堂、(4)立野ヶ原の遺構・遺物 | |
| 11、吉江地区 | 128 |
| (1)高宮野丹保遺跡、(2)仏土寺跡・田中遺跡 | |

| | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| (三)発掘調査の成果 | 123 |
| 1、香城寺惣堂遺跡 | 143 |
| (1)遺跡の立地、(2)発掘調査と層位、(3)平坦面と各遺構、(4)墳墓、(5)遺物、(6)福光町香城寺惣堂遺跡石組等の石質について、(7)香城寺惣堂遺跡第10号墓蔵骨器内出土骨について、(8)小結 | |
| 2、シヨウゴン寺遺跡 | 143 |
| (1)遺跡の立地、(2)層位、(3)平坦面と各遺構、(4)遺物、(5)小結 | |
| 3、若宮遺跡 | 183 |
| (1)遺跡の立地、(2)平坦面と各遺構、(3)遺物、(4)小結 | |
| 4、発掘調査のまとめ | 197 |

| | |
|-----------------------------------------------------------------------------------|-----|
| (四) | 133 |
| 1、医王山山岳宗教遺跡の構造と沿革 | 141 |
| 2、医王山の平坦面 | 183 |
| (1)はじめに、(2)自然面と造成面、(3)標高別分布と規模、(4)城郭と真宗道場の平坦面、(5)医王山山岳宗教関係の平坦面、(6)平坦面の造成時期、(7)まとめ | |
| 2、医王山の塚と石組について | 206 |
| (1)塚と石組の概要、(2)塚と石組の形態と築造時期、(3)塚と石組の性格について、(4)墓・経塚・基壇築造の背景、(5)まとめ | |
| 3、若宮遺跡 | 209 |
| (1)遺跡の立地、(2)平坦面と各遺構、(3)遺物、(4)小結 | |
| 4、発掘調査のまとめ | 215 |

(五) 関東下知状（読み下し）

6、民俗信仰と現世利益
(1)民俗信仰と真宗

第四章 医王の山と里の民俗

7、福光町域における近世堂祠の規模
医王山山岳信仰伝承（医王山系寺院調査）

(一) 医王山麓の村々と民俗

355 355

1、山と信仰

362

- (1)山祭り、(2)山行き、(3)山の神、(4)山中の小堂や石仏、
(5)雨乞い、(6)山での忌みごと、(7)忌まれている場所、(8)
妖怪、(9)天候の予知、(10)呪い

2、山とくらし

362

- (1)炭焼き、(2)なぎ畑、(3)製紙、(4)漆、(5)石切り、(6)薬草、
(7)かくせつ、(8)水力発電

3、村と山

372

- (1)入会山、(2)惣山、(3)医王山惣山管理申合事項、(4)山割、
(5)山火事

(二) 医王山の山麓堂祠と信仰

376

1、医王山東山麓の堂祠概観

376

- (1)近世における医王山山麓の堂祠

2、時宗と熊野信仰とのかかわり

379

- (1)時宗過去帳と吉江、(2)時宗と熊野の結びつき、(3)最勝
寺と善光寺・善光寺聖と砺波郡、(4)近世の時宗と遊行上
人

3、立山権現の出開帳と姥尊

383

- 4、富士権現と寛仁寺
5、砺波郡に多い諏訪社

385 383 383

(四) 医王山麓の伝承地名

346

1、地名は伝承文化の証左

402

2、小名に多い当字

402

3、福光の地名

402

(1)産物に因む地名、(2)祭祀にまつわる地名、(3)戦乱時の
情報網か、(4)生活に起因した地名、(5)地形・地質に起因
した地名、(6)人の行き交う様を地名に、(7)人の名も地名
として、(8)動・植物に因んだ地名、(9)ほのかな温もりを
もつ地名、(10)その他の地名、(11)人母の地名

4、医王山周辺の小名図

405

5、金沢の地名

406

6、「谷」は地元の発音で

406

7、漢字の解釈は怖い

406

8、古文書による医王山東麓の地名（福光町史未集録分）

406

医王山をめぐる古道

406

1、朴坂越え（おこ谷越え、小又越え、二俣街道）

406

2、横根越え（横根坂峠、中根峠、横谷峠）

406

3、白はげ越え

406

4、かつ坂越え（かす坂越え、かれ谷越え）

406

5、釜中越え（鎌中越え）

406

416 415 414 413 411 411 407 406 406 406 405 403 402 402 402 392 387 385

| | | |
|-----|---------------------------------------------------|-----|
| (六) | 福光町の中世石造遺物 | 418 |
| | 1、宝篋印塔 | 418 |
| | 2、五輪塔 | 418 |
| | 3、板石塔婆（板碑） | 418 |
| | 4、石仏 | 418 |
| | 5、岩安の弥勒石仏 | 418 |
| (七) | 医王山をめぐる伝説 | 418 |
| | 1、信仰の原点—自然と怪異 | 418 |
| | (1)温泉と医王、(2)白山・立山・修驗道、(3)正月の奇瑞、 (4)龍神の末裔たち | 418 |
| | 2、歴史の彩り—来訪者たち | 418 |
| | (1)泰澄、(2)弘法、(3)蓮如、(4)平家物語の落人たち、(5)佐々 成政、(6)その他 | 418 |
| (八) | 医王山と登山 | 418 |
| | 1、登山以前 | 418 |
| | 2、登山者の出現 | 418 |
| | 3、スポーツ登山の山 | 418 |
| | 4、大衆の山 | 418 |
| (九) | 医王山と文学 | 418 |
| | 1、泉鏡花「薬草取」 | 418 |
| | 2、室生犀星「医王山」そのほか | 418 |
| | 3、深田久弥「わが山山」 | 418 |
| | 4、石崎光瑤「越中国医王山に遊ぶ記」 | 418 |

あとがき

医王山文化調査協力者名簿

医王山文化調査を終えて

5、小川友親「医王山に登るの記」
6、漢詩
7、短歌・俳句
8、その他

445 444 443 443 443

